

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3490500091
法人名	社会福祉法人たちばな福祉会
事業所名	たちばな苑グループホーム
訪問調査日	平成22年2月24日
評価確定日	平成22年5月5日
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3490500091
法人名	社会福祉法人たちばな福祉会
事業所名	たちばな苑グループホーム
所在地 (電話番号)	〒737-1377 呉市倉橋町14948番地 (電話) 0823-54-1516

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年5月5日

## 【情報提供票より】(平成22年2月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設／〇単独	〇新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	26,500 円
敷金	有( ) 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日1,380円		

### (4) 利用者の概要( 2月 4日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤病院, 済生会呉病院, 四道歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

たちばな苑グループホーム(以下、ホーム)は、瀬戸内海に面した広島県最南端の倉橋町にあり、海と山の豊かな自然環境に恵まれています。広い苑内にはバラ園や果樹園、野菜畑があり、季節の花が咲きそろう、利用者の散歩道となっています。母体法人は長年、地域医療・福祉に貢献され「福祉とは愛なり、人なり、心なり」の理念をもとに管理者と職員が一体となり、利用者の「その人らしい暮らし」の支援に努めておられます。併設のデイサービス利用者として、さまざまな行事で交流が図られ、クラブ活動の参加も楽しみにされています。豊富な食材による食事が提供され「食べることの楽しみ」があり、併設診療所での健康管理とともに、安心な暮らしが守られています。また、職員研修に法人からの積極的な支援があり、サービスの質向上につながられています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果では、改善課題はありませんでした。評価内容について職員全員で共有され、よりよいサービスの質向上に取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が自主的に行われています。評価を振り返りの検討材料として、ケアの質向上に取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域住民や地域包括支援センター職員、家族の参加を得て、2か月に1回開かれています。利用者の近況報告、行事報告、困難事例の報告などを議題に検討されています。会議の中で提案された「利用者の昔話を聞きたい」との声を実現するため、「昔話し会」が開かれました。自分のことを人前で話すことから、あらたに利用者の元気を引き出す効果が生まれていました。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	アンケート調査を年2回行い、利用者や家族の要望を把握するとともに、結果をケアの内容やサービスの向上につなげられています。面会や家族会を通じて、利用者が何でも言える環境になっていますが、玄関に質問箱を設置し、苦情等への対応に配慮されています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体法人は長年地域医療に貢献され、地域との信頼関係ができています。盆踊りや文化祭など季節的な地域行事に、ホームとして積極的に参加され、地元のデイサービス利用者とも日常的に交流するなど、利用者は地域に溶け込んだ暮らしを送っておられます。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人は「福祉とは愛なり、人なり、心なり」という福祉の基本理念を掲げられています。ホームでは、日々の実践にむけて「和顔愛語」という、心からの和やかな笑顔、言葉遣いに心がけるよう、独自の方針を守られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎ時には、全員で理念を唱和し共有されています。理念の唱和には利用者も自然に参加し、家庭的な暮らしの支援につながられています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人は長年にわたって地域医療に貢献され、地域との信頼関係ができています。祭り、盆踊り、文化祭など季節的な地域行事に参加し交流を深めておられます。地元のデイサービス利用者とも日常的に交流があり、利用者は地域の一員として暮らしておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で取り組み、その意義をよく理解されています。外部評価についても、得られた結果から改善等について検討され、評価を活かしたケアの実践に取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域住民や地域包括支援センター職員、家族などが参加し、2か月に1回開かれています。会議では利用者の暮らしぶりや行事、困難事例の報告などが行われています。委員の発案で「利用者から昔話を聞く会」が持たれ、利用者が話をすることで回想療法にもつながり、利用者にも元気をもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員を通じて、行政との連携をもたれています。ホーム職員に認知症アドバイザー有資格者がおり、意見交換会を行うなどサービスの質向上に取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりについて、担当者が手書きした「家族通信」を作り面会時に渡すなど、日ごろの状況がよく伝えられています。定期的に、行事案内や献立表も送られ、暮らしぶりが詳細に報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、何でも言える信頼関係ができています。また、家族の意見を汲み取るために、アンケート調査や、年2回の家族会が開かれ、ホームの運営に反映される仕組みができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は長年勤務が多く、あまり異動はありません。法人内での異動がある場合は、利用者に影響を与えないよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて段階的に、技術向上にむけた内部研修が行われています。また、外部研修も職員が参加しやすいように配慮されるなど、職員の研修に積極的な支援をされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には同業者が少なく交流の場を持ちにくい環境ですが、職員の外部研修などで、意見交換をしてサービスの質向上につながられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、見学や宿泊体験をすることにより、安心、納得した後の利用をすすめられています。また、併設のデイサービス利用からの入居例もあります。どちらの場合も、家族とも十分な話し合いをしながら徐々に馴染めるよう支援をされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、片付け、クラブ活動、毎日の散歩など、利用者と共に過ごしながらか、張りのある暮らしを支援されています。苑内の畑で、畑仕事の上手な利用者から教わりながら季節ごとの野菜作りをされています。収穫した野菜は、食卓に出され利用者に喜ばれています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いをくみ取り、その人らしさを引き出すなど、個別ケアに努められています。また、家族からの意向も聞きながら利用者本位の支援をされています。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、管理者、職員の話合いの中で検討され、利用者にとって最良のものであるよう医師も加わって意見交換の内容を反映し作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングが行われています。詳細な記録の中から、ミーティングによって課題を整理し、必要に応じて、現状に即した計画の見直しをされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス行事や、クラブ活動に参加し、地域の人との交流が図られ、利用者の楽しみとなっています。また、敷地内に特養があり、夜間の看護体制が整っています。容態急変時には、症状によって特養入所の手続きをとるなど、柔軟な支援をされています。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にかかりつけ医の診療所があり、いつでも受診できるので利用者の安心を得られています。また、かかりつけ眼科医や総合病院などへも、容態に応じて適切な医療が受けられるよう支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族にとって最適な終末期ケアができるよう、医師の意見も参考にして話し合いの機会をもたれています。利用者が高齢化する中で終末期の対応について、ホームとしての指針作りを考慮、検討されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時にプライバシー保護についてよく説明されています。毎日のミーティングでは、利用者の尊厳を守るよう、言葉かけなど職員の対応について徹底されています。また、個人情報の管理も徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位に、その人のペースを大切にして、利用者がやりたいことの希望に沿って、ゆったりとした暮らしを支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好アンケートが年2回実施されており、利用者の食べたいものが献立に取り入れられています。月1回はバイキング形式で、さまざまな料理を自分で選ぶことができます。おやつも、月1回利用者と職員と一緒に作られています。また、自分たちで作った野菜も食卓に出されます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴のほか、清潔保持のためシャワー浴もできるようになっています。個別に体調や容態に合わせてリフト浴もされて、安全に配慮されています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味を活かした生け花、習字、茶道、園芸などのクラブ活動を支援をされています。毎日の散歩で、苑内の花や河口に遡上する魚を見るなど、恵まれた自然環境を楽しんでおられます。生協の移動売店が月に2回あり、買い物も楽しめます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海と山に囲まれた自然豊かな苑内で、毎日の散歩を支援されています。月1回のドライブ外出では、近くのスーパーへ買い物に行かれます。併設のデイサービス利用者と合同で海岸などへの外出もあり、利用者の楽しみとなっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない方針とし、見守りを徹底されています。夜間や職員が手薄になるときのみ、安全確保のために玄関に鍵をかけられます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署の協力で、年2回の消防訓練が行われています。夜間を想定した避難訓練も実施されて、職員の招集時間を計るなど、入念な協力体制作りが図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事カロリー摂取量や水分補給量などは、毎日克明に記録されており、管理栄養士によって栄養バランスを配慮した献立を工夫されています。体調の変化によって、おかゆや刻み食などの対応もとられています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く明るく、柔らかな色調に統一されて暖かい雰囲気があります。廊下には随所にベンチが設けられ、居心地のよい畳敷きのスペースもあります。玄関周りに四季折々の花が飾られて季節を感じさせています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具などが置かれて、住み慣れた我が家の雰囲気を大切にされています。入り口には、クラブ活動で作った手芸品が飾られて、自宅にいるような親しみやすさを工夫をされています。		



# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 たちばな苑 グループホーム

評価年月日 平成 22 年 2 月 3 日

記入年月日 平成 22 年 2 月 4 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 主任 氏名 高谷 千鶴

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## I 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	たちばな苑福祉会全体としての恵まれた自然環境を生かし、家庭的雰囲気のある楽しい生活の理念に沿ったケアを実践している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の引継ぎ時に唱和して理念に沿ったケアが提供出来る様取り組み実践しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関に掲示し面会に来られた家族や地域の人々に話しかけし理解してもらえるように努めている。		

### 2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	診療所に来られる人、散歩の途中の地域人との交流に努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事、祭り、盆踊り、駅伝、文化祭に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	相談しやすい環境を作りホームへ気軽に立ち寄れる関係作りをおこなっている。 認知症サポーターと交流をもっている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価から得られた改善点について、職員全員で共有しサービスの質の向上につとめている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者のホームでの暮らしぶりや困難事例などを報告しアドバイスを受けケアの質の向上に努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政、及び認知症アドバイザーと意見交換から得られたことを参考にして質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部研修、併設特養の勉強会に参加して活用できるように備えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修、併設特養の勉強会に参加し、自己研鑽に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分に説明し、質問にはわかりやすく丁寧に対応し理解納得を得て契約を結んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱を設置し家族が面会の時にご意見を聞き解決に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回、家族通信をおこなっている。その他近況報告、連絡をおこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	アンケート調査を実地し、利用者、家族の要望の把握に努めている。又、玄関に苦情箱を置き、自由に意見が言える機会をつくっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議、毎日のミーティングをおこなっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整ができるよう対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や、離職はなるべくないよう努力している。 法人内の異動がある場合は利用者のダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、マニュアルを徹底し職員の力量に応じた研修の機会を確保し法人全体で積極的に取り組んでいます。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修を通して同業者との意見交換の機会を持ち課題の見直しをし、ケアの質の向上に努めています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場内の相互支援体制づくりに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	業務目標が達成できるよう努力し、評価される。 資格習得の促進。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	居宅との連携を密にして家庭環境を把握し、ご家族と本人とのコミュニケーションを大切に不安を取り除くようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	担当ケアマネジャーから情報を収集し、事前訪問、見学にきていただき本人の希望と話をよく聞き対応しています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者の方に何が必要か担当ケアマネジャー、サービス事業所と連携を持ち、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	宿泊や見学の機会を作り、十分な話し合いと情報交換をし、安心、納得した上でホームでの暮らしが開始できるよう取り組んでいます。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、食事の準備、片付け、クラブ、散歩等を一緒に行い張りのある暮らしの支援につなげています。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には行事と一緒に参加していただき、面会時には、作業、おやつ作りなどに参加していただく。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	両者の話を聞き、本人と家族の時間を作るため面会時には、利用者、家族、職員も入り、話を聞きお互いの理解を高める。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設特養の行事、クラブに参加 地域の行事の参加、知人との交流の支援		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の方の性格、行動などを把握し、よりよい関係づくりができるよう支援しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	季節毎の挨拶状をだしている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> </div>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさを精一杯引き出すよう個別ケアに努めています。 暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ利用者主体の暮らしを支援しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、居宅、サービス事業所と連絡を取り経過などの把握につとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの日誌に毎日の状況を記録し心身状態の変化の早期発見につとめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、管理者、職員などで話し合い利用者にとって最良のケアができるよう医師も加わり介護計画をたてている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的なモニタリング、毎日のミーティングで課題を整理しながら必要に応じて見直しをおこなっています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌、引継ぎノート、個別記録に記入し、毎日ミーティングをおこない検討し計画を見直している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設施設のデイサービスや、クラブ活動に参加するなどして利用者同士の交流をたのしまれています。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たり消防署の立会いの下で2ヶ月に1回訓練をおこなっている。		
----	---	--	--	--



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望があれば対応できるような体制を整えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議、その他必要に応じて包括支援センターと連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	診療所が敷地内にあり、いつでも受診することができます。定期検診のほか、夜間の対応などの医療体制が整っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	毎週、定期的に受診しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の看護師及び、緊急な場合は併設特養の看護師が対応できるよう支援しています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院したとき医療機関に情報交換し退院後のケアに備えています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	利用者、家族にとって最善な終末期ケアが提供できるようかかりつけ医と連携をはかりながら、家族、職員と話し合い対応について検討しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化に応じて、かかりつけ医の指示のもと、看護師、職員、家族と連携を図り支援できる体制を整えています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	住み替え時には、家族や関係者と十分な情報交換をおこない、住み慣れた環境づくりに努めています。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

##### 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入所時にプライバシー保護について説明し、職員には毎日のミーティングで再確認し、新人職員にたいしては、利用者の尊厳という観点からプライバシー保護の教育を徹底しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	絶えずコミュニケーションを持ちわかりやすく話しかけをおこない、自己決定できるよう支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のしたいことをその日の体調にあわせて、自分のペースでできるよう支援し、仲間とのコミュニケーションを図れるよう配慮しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	いきつけの美容院を家族といたり併設施設にくる美容院へいけるようにしています。 毎日の身だしなみにきをつけています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	年2回実施するアンケート調査で嗜好を把握し献立にかかしています。 利用者と共に準備、片付けをおこなうことで食に対して意欲を持ってもらえるように取り組んでいます。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	併設施設での月2回の売店の利用 ドライブを兼ねたショッピングなどで好きなものを購入し、楽しまれています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録をとり一人ひとりの排泄を把握し、気持ちよく過ごせるように努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の状態に応じてリフト浴を使用したりシャワー浴するなどして清潔保持に努めています。 入浴日はきめているが利用者のペースにあわせ個別に対応し安全に配慮しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの個室を用意し、自由にご自分のペースですごしていただいています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の生活暦に応じた生け花、習字、お茶などのクラブ活動に参加する機会をつくり好みに応じ、洗濯たたみ、散歩、園芸、おやつづくりをおこなっている。 法話会や地域の行事への参加を通してその人らしく暮らすための支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や能力に応じ金銭の取り扱いを支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	敷地内の遊歩道を散歩し季節の草花に触れたり、ドライブをおこなうなどして施設内だけで過ごすことのないように配慮しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	希望があれば、対応できる体制が整っています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し希望におうじている。 手紙の表書きは職員がしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会できるようにしています		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設施設の勉強会に参加し、身体拘束のないケアをこころがけています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	敷地内の出入りに気を配るとともに見守りを徹底し安全確保ができないとき以外は鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通して所在確認を行い、安全面に気をつけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じ、注意の必要な物品の保管、管理には工夫しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会に参加し、知識の取得を行い利用者の状態に応じた事故防止について検討している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	併設施設の勉強会に参加し、応急手当や初期対応の勉強会をして対応できるようにしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力もと、避難訓練が法人全体年6回おこなっています。夜間訓練は地域の消防団にも参加してもらい、協力関係作りに取り組んでいます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入所されたときに説明し、事前に対応策を考えたり、問題が起きたときは家族に連絡し、対応を考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックをし、異常があれば医師に報告し受診していただく。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示、説明を引き継ぎノートに記入し確認しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄記録を基に、便秘時は緩下剤を医師の指示によって服用しています。 散歩、体操など、体を動かすよう心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、うがいは、各自おこなっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な食事カロリーや水分量を把握し一人ひとりの状態に合わせて体調を崩されたとき、食事が進まないときなどお粥にしたり好物を聞いたり柔軟に対応しています。献立にも、栄養士が、栄養バランスに配慮しながら工夫されています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設の勉強会に参加し、感染予防マニュアルを準備しています。毎食時には手の消毒をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器洗い乾燥機を使用しています。食事は併設施設の厨房から台所まわりは常に清潔にしています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の周囲は散歩しやすく整備されています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって居心地のよい落ち着いた雰囲気ですごせるよう自然環境が取り入れられ、玄関まわりは季節ごとの花を植えたり季節の行事の飾りをかざり、季節感をあじわえるよう工夫しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂はいつでも過ごせるようにしています。 廊下には利用者同士で過ごせるよう椅子をおいています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には、本人の使い慣れたもの、大事にしているものなどをもって来て頂き本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を置き温度調節をこまめにしています。 窓も、時々開け換気をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーになっており、手すりも設置し安全に過ごせるようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの持っている力を把握して個別に対応しています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りは遊歩道があり、畑にいき作物をつくったり、庭では草取りをしたりしています。		



V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者の</li> <li>② 利用者の2/3くらいの</li> <li>③ 利用者の1/3くらいの</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者の</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族と</li> <li>② 家族の2/3くらいと</li> <li>③ 家族の1/3くらいと</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大いに増えている</li> <li>② 少しずつ増えている</li> <li>③ あまり増えていない</li> <li>④ 全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き活きと働けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての職員が</li> <li>② 職員の2/3くらいが</li> <li>③ 職員の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族等が</li> <li>② 家族等の2/3くらい</li> <li>③ 家族等の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>

※            は、外部評価との共通項目